

# 言語聴覚士の課題

(一般社団法人日本言語聴覚士協会)

## 1. 言語聴覚療法の提供に関する課題

- 1) 言語聴覚士が勤務している領域に偏りが見られる。
- 2) リハビリテーション施設基準等で必置となっていない。
- 3) 言語聴覚士の絶対数が少ない。
- 4) 訓練が必要なのに訓練を受けていない患者がいる(訓練適応患者の30%~40%に未実施)。

## 2. 言語聴覚療法実施上の課題

- 1) 過重な勤務状態
- 2) カンファランスの充実
- 3) 安全な言語聴覚療法、嚥下訓練実施

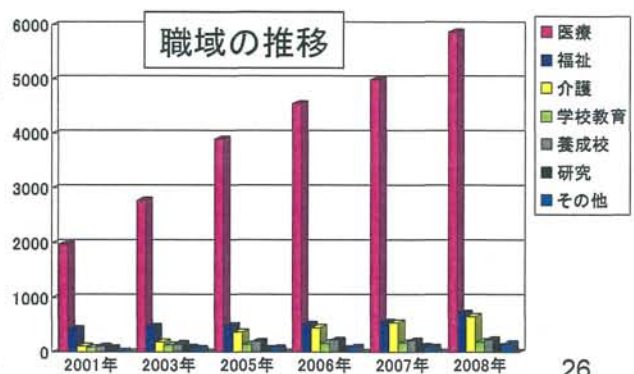
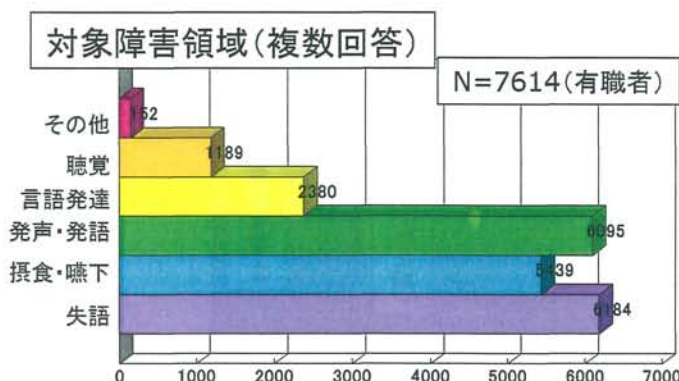
## 3. 卒前・卒後教育の課題

- 1) 志願者減
- 2) カリキュラムの検討(地域言語聴覚療法、関連職種連携演習)
- 3) 臨床実習の充実
- 4) 卒後研修、生涯学習の正当な評価

25

# 言語聴覚療法の提供に関する課題

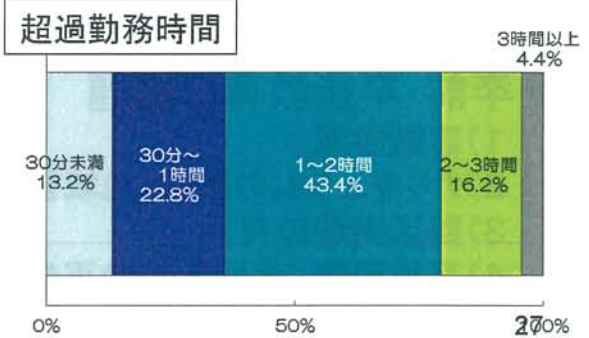
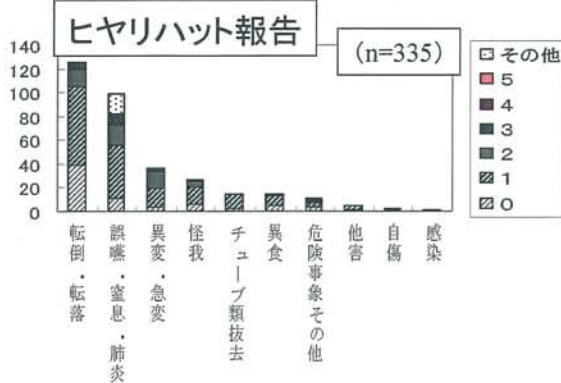
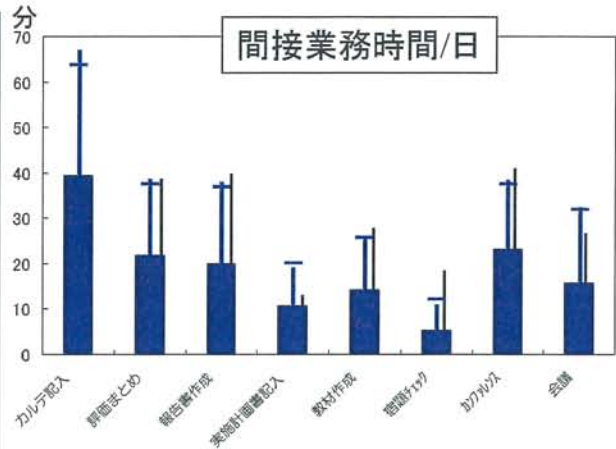
1. 介護保険領域、障害福祉領域に勤務する言語聴覚士が少ない。
2. 医療では、
  - ① 脳血管疾患等リハにのみの位置づけであり、かつ言語聴覚療法を行う場合についてのみの配置することとなっている。
  - ② 回復期リハ病棟では必置となっていない。
3. 言語聴覚士の絶対数が不足し、かつ毎年誕生する有資格者数が少ないため、全ての領域で慢性的な人員不足が生じている。



26

# 言語聴覚療法実施上の課題

- 過重な勤務状態
  - 従事者1人につき一日に平均18単位(1単位:20分)で週10単位実施と規定されているが、最大24単位まで可能とされているため勤務形態によっては20単位を越えている場合も多い。
  - 書類作成等の間接業務も多い
  - 超過勤務が常態化している。(64%が1時間以上の超過勤務)
- カンファランスに十分な時間を避けない。
- 安全な言語聴覚療法の実施
  - 嚥下訓練は高いリスクを伴う。訓練前後のケア(吸引等)が必要(特に訪問では)。



## 卒前・卒後教育の課題

基礎プログラム

1年目	2年目	3年目
学会 全国研修会 4講座 2講座	学会 全国研修会 4講座 2講座	学会 全国研修会 4講座 2講座
参加・発表 ポイント	参加・発表 ポイント	参加・発表 ポイント
症例検討 発表	症例検討 発表	症例検討 発表

修了証授与  
症例検討・発表  
4ポイント取得  
6講座履修

- 志願者減は、高校卒業人口の減少だけでなく、医療、特にコメディカルに対して魅力を感じる高校生が少なくなっている(リハ難民問題後、リハビリテーション領域では顕著)。
- カリキュラムにおいては、新しい課題(地域言語聴覚療法、関連職種連携演習の実施など)の導入とモデルコアカリキュラムの作成が必要。
- 臨床実習の充実
- 協会が実施している生涯学習システムによる認定を評価をしていただきたい(認定言語聴覚士、専門言語聴覚士を)。

専門プログラム

学会 全国研修会 2講座 1講座	学会 全国研修会 2講座 1講座	学会 全国研修会 2講座 1講座	学会 全国研修会 2講座 1講座	学会 全国研修会 2講座 1講座	認定言語聴覚士 修了証授与(第1期) 8ポイント取得 4講座履修	認定言語聴覚士 修了証授与(第2期) 講義内容を変えて左記プログラムの繰り返し	高度専門プログラム 専門言語聴覚士
参加・発表ポイント 職能活動ポイント	参加・発表ポイント 職能活動ポイント	参加・発表ポイント 職能活動ポイント	参加・発表ポイント 職能活動ポイント	参加・発表ポイント 職能活動ポイント			

5年間1クールで15講座開講

5年間1クールで15講座開講

検討中